

# 4・28沖縄デー闘争へ!

2016年4月11日

No.377

Tel 03-3651-4861

mail\_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 4・10鈴コン決起集会での 全学連・二川君アピール!!

鈴コン集会に集まった労働者・学生の皆さん。お疲れ様です。

7年という不屈の闘いをやり抜いて、偽装請負・不当労働行為と真っ向から勝利している鈴コン分会と連帯して学生から発言させていただきます。まず全学連として、3月18日に反戦ストライキへの弾圧で不当逮捕されていた6学生の全員釈放をかちとり、力づくで弾圧に勝利しました。労働者の方々の物心両面での支援があり、京都を中心にして2500筆もの署名が集まって、「反戦ストライキは無罪だ」ということを全世界に示しました。本当にありがとうございます。

今その高揚感の中で、首都圏の各大学で、とりわけ法政大学で新歓を行っています。法政大学では『花見禁止』ということがいわれています。花見をした学生は保証人や学部に通報すると法政大学は新歓期間前に言い出しました。団結する場であり、団結することを奪う攻撃です。そして田中優子総長は入学式の式辞で、自由を生き抜く実践知ということを行い、権威や組織やまわりの空気に寄りかからず、自分の力で考え、その考えに基づいて自分を律して生きることだとふざけたことを言っています。こんな現実に対して、団結して闘う信念であり、怒りを



示し続けてきたのが法大闘争です。

今、鈴コン闘争が闘い抜いていることも同じだと思います。組合員に対してかけられている偽装請負という不当労働行為は絶対に団結の力で打ち破れます。「個人事業主の請負」ってなんなんですか。富美商事も東豊商事も社長は同じじゃないですか。絶対に偽装請負は打ち破れます。

フランスで失業率24%の中、10代20代の高校生や大学生が労働法改悪反対

で200以上の大学・高校でバリケード・ストライキ、約2千ヶ所で集会・デモが闘われています。非常事態宣言下の中で、怒りに火がついています。ブラジルでも韓国でも戦争と貧困にたいする闘いがあります。鈴コン分会闘争が7年目に突入する中で、間違いなく怒りに火をつける闘いになっています。戦争の現実、この怒りと闘いを押しつぶすことにあります。

団結した力が、労働や教育を奪還して、戦争を阻止し安倍政権を倒していく、反戦ゼネラルストライキが希望を示せると確信しています。鈴コン闘争が絶対に勝利できることを確信して学生からの連帯のアピールとさせて頂きます。ありがとうございました。

### 辺野古への新基地建設許すな! 改憲-朝鮮侵略戦争とめよう!

## 4・28沖縄デー闘争

4月28日(木) 12時半~ 法政大・市ヶ谷キャンパス集合

※13時半デモ出発

16時~ JR新橋駅から国会議事堂へデモ

※15時半集合



# 広大学生自治会によるG7外相会合に対する声明文

2016年4月1日

声明文

広島大学学生自治会

私たち広島大学学生自治会は、3・11福島原発事故の影響を過小評価する御用学者の追放を求める運動を契機に2013年に再建された。現執行部は昨年10月に安保法制の制定をうけて、反戦ストライキを広大から巻き起こそうと提起し、投票した学生のうち、7割以上の信任をうけて形成されている。

私たちは4月開かれる外相会談を、欺瞞に満ち溢れたものとして、怒りをもって弾劾する。岸田外相は、昨年NPT再検討会議において「核の傘」を理由に核兵器禁止条約の決議を棄権し、その一方でインドと日印原子力協定の合意をとりつけ、インドに核技術を売り込んだ。インドはNPTにさえ加わっておらず、パキスタンと核開発競争を行ったような歴史があるにもかかわらず、である。このような人物に「核なき世界」を訴える資格はない。

この岸田外相が、学生・労働者に核開発を続けさせ、戦争に加担させている各国を広島に招いて「核の悲劇・脅威」を伝えることにどれほどの意義があるのか。米国などは、被曝の情報を独占し、核の脅威を知るからこそ、その威力を必要として核を保有しているのである。戦争・核の脅威を知りながら戦争を続け、核を保有し続けている国々の利害調整にすぎない会談にヒロシマを利用することに怒りを覚える。かつては「核の平和利用」と称して進められた原発導入にもヒロシマが利用された。欺瞞に満ちた外相会談は即刻中止されるべきであり、私たちは弾劾をもって応える。

また、この外相会談に向けて「対テロ」名目での治安体制強化が進められているが、これは、このように批判されるべき批判の声を封殺するためのものであって、これがまさに戦争体制—戦争法の実際的な動きであり、絶対に認められない。

オッペンハイマーや京都大学での戦時中の原爆開発を例に出すまでもなく、それぞれの国家体制の枠組みのもと、核研究に従事させられているのはいずれの国においても学生・大学人であり、戦争を担わされているのもまた、困窮下に置かれ、軍隊に行かざるを得ない同世代の若者である。核廃絶であり、戦争をなくす力は学生・労働者自身にある。学生・労働者の抗議の声を封殺して行われる外相会談は、この戦争・核開発を拒否する力を否定するものであり絶対に認めることはできない。

外相・首脳に欺瞞に満ち溢れた話し合いではなく、私たち学生・労働者の反戦運動を、国境を越えて取り組んでいくことこそが戦争を止める。どの国でも、法律の形で学生・労働者が大学・職場で戦争に協力させられるのかどうか問題になるからだ。

沖縄では、核戦争危機をもはらんだ米韓合同軍事演習に参加する戦闘機が飛び立つなか、激しい実力行動が続けられている。世界を見れば、フランスでは「対テロ」名目で敷かれた戒厳体制のもと労働者が数々のストライキを闘い、この間は学生たちが労働者の労働法改悪反対の闘いに連帯しバリケードストライキを闘っている。韓国でも戦争危機のもと、戦争阻止・生きさせろの声をあげストライキに立ち上がり続けている。

4月10日の外相会談弾劾行動は、こうした沖縄・世界中で闘う人々と連帯するものとしても取り組む。

## 【当面する行動方針】

### ●4・24全国交流会

**打ち破ろう分断! 取り戻そう団結! 世界の労働者は団結して闘おう!**

4月24日(日) 13時~ 川崎市産業振興会館ホールにて

主催: 外登法・入管法と民族差別を撃つ全国実行委員会

### ●5・15沖縄現地闘争

5月14日(土)~16日(月) ひめゆり資料館見学、沖縄県民大会参加、国際通りデモ、沖縄大で集会(予定)

